

## 令和8年度 第1回農地中間管理事業評価委員会の意見について

### 1. 日時および場所

日時：令和8年6月10日（水）13時30分～15時30分

場所：（公財）三重県農林水産支援センター会議室

### 2. 評価委員の氏名等

※五十音順

所属・役職	氏名
東員町農業再生協議会 会長	伊藤 良子
三重県中央農業改良普及センター 所長	中川 知之
国立大学法人三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授	長屋 祐一
税理法人アクア 代表社員税理士・農業経営アドバイザー	濱口 勝志
三重県土地改良事業団体連合会 専務理事	藤本 隆治
三重県稲作経営者会議 会長	森田 俊紀

### 3. 議事事項

- ・令和7年度事業実施状況と今後の対応について（報告）
- ・報告に対する意見及び評価

### 4. 評価委員会の意見等

#### （1）令和7年度の事業実績について

令和7年度の農地中間管理事業による農地の借入・貸付実績面積は、2,388.5haと目標の1,700haを大きく上回ったが、利用権設定等促進事業からの移行実績は、まだ十分とは言えない状況であることから、事業の内容を広く周知するとともに、農地相談員が現場に入るなどして移行率の向上を図り、更に実績を上げてほしい。

また、農地中間管理事業開始後10年以上が経過し、契約更新の手続きも始まっていることから、更新時の担い手に対する農地の集積・集約や経営拡大等への支援にも取り組んでほしい。

加えて、事業実績が増加していることから、成果の取りまとめ方法について検討してほしい。

#### （2）農地の集約化について

各地域において、農地の集約化が進みにくい背景は、「地域の合意形成と調整を担う人材・体制の不足」や「地域ごとの実情に応じた集約手法が定まっていないこと」などに加え、市町における地域計画の取組状況の違いにもあると考えられることから、今後は、関係機関による役割分担の明確化や支援体制の強化、ならびにモデル地域による成功事例の創出と横展開が進むよう取り組んでほしい。

(3) 大区画化等加速化支援事業等の政策の活用について

大区画化等加速化支援事業については、国が重点的に推進している事業である一方、現場では十分に周知されていないとの声もある。事業の推進に当たっては、県、市町、土地改良区、農業委員会、農地中間管理機構など関係機関がこれまで以上に連携して取り組むことが重要と考えており、機構にも積極的な協力をお願いしたい。

(4) ビジネスプランコンテストの継続と成果の公表について

ビジネスプランコンテストは非常に良い取組であり、農林水産省や他県からも注目を集めていることから今後も継続して実施するとともに、その取組成果についても、新たに農業参入を目指す企業等の参考となるよう公表してほしい。